

令和6年度上京区民まちづくり会議「上京！MOW」 実施報告書

日時： 令和6年9月30日(月)18:00-20:00

会場： 上京区総合庁舎 4階 会議室



上京区役所では、「人や団体がつながる場」として「上京区基本計画 2025」に掲げるまちづくりの将来像をテーマに、上京区民、上京区内でまちづくり活動をしている団体の皆様とアイデア提案・意見交換を行いました。

54名の参加者が6つのテーマ・8つのグループに分かれ、個々が取り組む活動をテーマと照らし合わせながら紹介し、将来像の実現に向けてできることについて意見を交わしました。その後、各グループで出されたアイデアや意見を全体に共有しました。





挨拶(新川議長)



「上京！MOW 部門」過去の採択事例紹介のパネル展示

プログラム

- 18:00 挨拶
新川達郎 上京区民まちづくり会議議長
- 18:03 上京区基本計画 2025
上京区民まちづくり活動支援事業「上京！MOW 部門」説明と過去の採択事例紹介
- 18:20 基本計画に掲げる将来像をテーマとしたアイデア提案・意見交換
＜テーマ＞
- 1 文化と絆で支えるまちづくり
 - 2 安心して暮らせるまちづくり(防犯・防災・交通安全)
 - 3 西陣を中心とした地域の活性化
 - 4 産業・商店・観光によるにぎわいづくり
 - 5 地域ぐるみの子育て支援
 - 6 生涯にわたる健康づくり
- 19:20 グループ発表
- 19:40 総括 (新川議長)
- 19:45 グループ間での感想・気づきの共有
- 20:00 終了

意見交換

テーマ1 文化と絆で支えるまちづくり

1-1テーブル



町家に暮らしていたり、茶道やバレエ等に親しんだり、お住まいの地域の歴史を調べて子どもに伝える活動をしている参加者同士で、文化をどのように次世代につなげたら良いかと意見を交わしました。地域住民は「里親」のように学生と関わり、地蔵盆や夏祭り、茶会を通じて交流しようという提案のほか、子どもや家族で西陣の魅力に触れる「西陣 FES(フェス)」や同志社大学学生による継志寮夏祭りなど、学生が地域と関わるきっかけとなる事例が共有されました。

＜意見の一例＞

- 若者、地域の企業、学区、自治会などの多様なセクターが交じり合っ、文化的な活動をするのが良い。
- イベントなどは単発で終わらず、周遊・継続できるものにすべきではないか。
- 同志社大学茶道部が地域へ出ることも考えてはどうか。

1-2 テーブル



各自の活動を紹介する中で、活動を通じて定期的に集まって話をした結果、知り合いが増えたり、信頼関係ができたりと、意図しなかった効果を得られることがあり、「明確な目的を持たず、集まれば何か良いことがあるかもしれないくらいの気持ちで行う活動は信仰に近い」との経験談がありました。それに対して、「毎月お掃除のために神社に集まる習慣は、人間の行動を整える行為なのか」、「輪になって話すことは大事ですね」といった意見もあり、活動を続ける意義に関する話題で盛り上がりました。

<意見の一例>

- 国の文化等の違いに触れ、お互いを知ることも大切。
- また、同じテーマで活動分野の異なる人たちが定期的に顔を合わせたり、知り合ったりできる場をつくるのが大事ではないか。
- 相手を尊重し、活動することが絆を強めるうえで大事。

テーマ2 安心して暮らせるまちづくり



地域で活動されている消防団、民生児童委員、老人福祉員、空き家相談員の方々や、防災研究に携わる方が集まりました。自己紹介で趣味を伝えて打ち解けた後、一人ひとりの活動紹介を丁寧に行いました。その都度質問や意見も出され「上京の特徴でもある寺、路地、水を上手に活用して防災に役立てよう」、「子どもたちが災害時のごはんを作って備えられるような体験を」など、これからできること、やってみたいことへのアイデアを膨らましました。

<意見の一例>

- 子どもたちがよその家に頼れなくなっている。「子ども110番のいえ」を整備し直して、子どもたちに覚えてもらい、地域で頼れる場所があることを知ってほしい。
- かまどベンチのように、防災時に活用できる置きベン(ベンチ置くだけプロジェクトの一環で区内に40ほど置かれているベンチ)を作ってはどうか。
- 外国籍住民とのコミュニケーションでは、子どもを通じたコミュニティづくりを意識してはどうか。

テーマ3 西陣を中心とした地域の活性化

3-1 テーブル



観光客を対象としたワークショップやものづくり体験は増えてきているものの、地域に暮らす若い人や学生が西陣の暮らしや文化に触れる機会が少ないという課題意識から、地域と学生がどのようにつながれるかについて話し合いました。「同志社のEVE（イブ）で、地域の人によるブースを作ります」、「地域のことを学ぶサークルを立ち上げたいです」と大学生から前向きな声が聞かれたほか、「地域の体育祭や夏祭りを、スタンプラリーで巡れるようにしたら学生も参加しやすいかも」など、出会いの接点を増やすためのアイデアが出されました。

<意見の一例>

- 気軽に話しかける、話しかけられる接点を作るべき。
- 若い人や学生に、伝統産業に関心を持ってほしい。
- 「京都の人と学生が出会う場となり得る西陣伝統文化祭「千両が辻」や堀川まつり、学区の体育祭や夏祭りなどの情報をどのように大学生に伝えようか」という視点でのアイデアを考えたい。

3-2 テーブル



「学生も地域に関わりたく、地域も学生と関わりたい思いがある」と共有されました。学生から、大学を飛び出して鴨川の清掃活動や西陣の朝市マルシェ、小川学区の買い物支援など地域活動に携わる事例を伝え、「学生が地域活動の情報を自ら得ようとする姿勢を持ち、地域の方々にその姿勢を見せることが大事だ」などの意見が出されました。また、12月から堀川商店街で、まちづくり活動をしている人にインタビューをするラジオ番組が始まる予定で、「ラジオを通じて地域と大学生がつながる機会になるかもしれない」と期待する声が上がりました。

<意見の一例>

- 商店街だけで何かをしようとする。アイデアが広がるようにするため。学生の力を受け入れる必要があると思う。
- 学生はいずれ卒業して京都を離れてしまう人が多いので、継承が難しい。取組を始めるときに意識合わせをすれば、達成感も違うと思う。
- 学生は卒業したら上京から去ってしまう人もいるが、活動を継承してだけでなく、離れても「上京は良いところ」だと思っていただくことが必要だと思う。

テーマ4 産業・商店・観光によるにぎわいづくり



西陣伝統文化祭「千両が辻」に対して運営者、出店者、参加者として関わる人が集まったので、イベントを充実させるためのアイデアを話し合ったところ、「街角の至るところでイベントが行われたら、面的な賑わいが生まれるのではないか」との提案がありました。また、区民が地域イベントの情報を得た後、実際に足を運ぶ仕掛けとして御朱印帳の作成やスタンプラリーの実施などのアイデアが出ました。さらに、「学生や留学生が継続して関わられるようにするための交流が必要では」との問いかけに対して「上京朝カフェは良い機会になるのでは」と意見が交わされました。

<意見の一例>

- イベントの年間スケジュールやマップがあれば参加しやすくなるのでは。例えば、ウェブサイト「にしZINE」で、多くのイベント情報を得られるようにしてはどうか。
- 同じエリアで同じ日にイベントがあるとして、意図しなければ人の流れが分散すると受け止められるが、意図的に巡れるようにしたら、面的なにぎわいができるのではないか。
- 留学生や海外からのアーティストが上京で活動を発表する機会はあるが、その後継続して関係を持つ人は少ない。

テーマ5 地域ぐるみの子育て支援



子ども食堂を始め子どもの居場所づくりに取り組む際、「人材と資源は何かなるが、場所を見つけるのが最も苦勞する」、「必要な支援を受けるまでの一歩を踏み出せない人もいて、そのためのハードルを下げることや、子育て支援に関する情報を広く知ってもらうことが必要だ」、「上京区全体で子育てを支え、区内を動き回れたら効果的だと思う」など、日々の取組から感じることを共有しました。初対面での話し合いの中から意外なつながりを見つけたり、共通の知り合いがいたりと打ち解けた雰囲気でした。

<意見の一例>

- 子育て支援に関する情報を知って参加してもらえるようにするため、例えば、SNS により活動の様子を発信するといったことも考えられるのではないか。
- 自分の学区だとかえって行きにくい人もいる。学区を越えて連絡を取れるようにしたらどうか。
- 上京区社会福祉協議会ホームページには、区内にある子どもの居場所がまとめられている。子ども食堂

テーマ6 生涯にわたる健康づくり



高齢者にとっては体力だけでなく心の健康も大切で、子どもにとっては家庭での教育や地域住民との関わり合いも健康づくりに欠かせないと、幅広い視点で健康を捉えて話しました。

ウォーキングなどの運動、民生児童委員による 88 歳敬老お祝い訪問事業、子どもの願いを叶える形で行われた校庭での花火大会などが紹介され、各地域の活動を互いに周囲に伝えあえば、より多くの人々が社会との接点を持つことができるため、活動を地図に落とし込んで見える化してはどうか、とアイデアが出されました。

<意見の一例>

- 「健康」とは一人では成り立たない。生きがいを見つけ、関わり合い、そしてつながることが大事。
- 京都中小企業家同友会には健康に関わる企業もあり、もっとまちに関わることができると思う。
- 高齢者が持っているさまざまな才能を引き出せるようなことが考えられないか。

新川議長の総括



テーマ1では、上京には色々な文化を集める力、人を集める力があり、文化と絆で支えるまちづくりとなっているとお話でした。

テーマ2では、お寺の存在や子どもとともに行う活動を、防災における大切な資源として目を向け直したら、色々な活動が安心安全につながっていくだろうとお話をいただきました。

テーマ3では、これまでの西陣の実情を踏まえてみんなが関わられるような巻き込みの力が必要で、そのためにも一人ひとり

の個の力を伸ばし、接点や出会いの場をつくっていくことが大切だと伝えられていました。

テーマ4においても、地域活動に足を運び、地域と結び合うことが大事なポイントで、異なる文化の人も自由に集まれるような場があれば、地域が活性化していくと言われていました。

テーマ5では、主に子ども食堂の役割について議論され、必要とされている人が集まることのできる場をどのように作ればよいか、子育てを支えるための地域の資源をどのように集めていくかについて話し合われていました。

テーマ6では、若い人から高齢者まで、色々な地域でのつながりを持ちながら健康に過ごす活動を伝え合い、実は、活動を通じて区内で色々な人たちが既につながっていることを実感されていました。

今回の意見交換では「つなぐ」がキーワードとなりそうです。人が集まったり、人を集めたりするためには、自由で誰もが入りやすい出会いの場をつくる必要があります。そのような出会いの場があれば、文化、安心安全、経済、子育て、健康、福祉からみた上京での暮らしにおいて、様々な人の関わりが見えてくるでしょう。「つながり」「出会う」「集まる」「関わる」をキーワードに、上京！MOWで出会ったみなさんの中から新しい活動をつくっていただければと思います。

大学生からのメッセージ

「上京！MOWに参加して、初めてまちづくりに関して当事者意識を持ちました」と、今日の気づきを自分の言葉で会場みなさんに伝えたいとの声が聞かれ、最後に参加者全員の前でお話をされました。「上京区には、伝統文化を支える人、その他まちづくりに関わる人やそれを応援する人がたくさんいることを知りました。自分たちのまちを自分たちでつくる努力をされているみなさんの中に、私たちのような若者が協力できておらず、学生と地域の方々が密接に関わっていないことに問題意識を感じました。学生も関わっていき、まちを良くしていきたいです。ぜひみなさん、私やここにいる学生と話してください」と熱い想いを語っておられました。



意見交換後の感想・気づき

- 上京！MOWに参加している人の1年間を常に見える化してくれたら協力も応援もしやすいと思います。
- 一人では何もできないので、仲間づくりの大切さを感じました。
- 様々な活動、考え方、想いを持った人がいて、まちづくり活動に必要な動機であったり、運営方法であったり学べるが多かったです。このような機会があれば、もっと参加したいと思いました。
- 西陣の素敵なおところって、「人」だと思います。
- 若い人に町内会の楽しさを伝えます。
- 同志社大学継志寮や茶道部として、イベントに参加・運営していきたいです！
- 学生と長年上京区にお住まいの方との間を取り持つには、新参加者が外部からの視点でサポートすることが必要なのではないのでしょうか。
- 地域の方々は、長期的なつながりを求められている。学生個人でのつながりではなく、団体としてのつながりが重要になると実感しました。
- 色々な場所で、たくさんの方が地域を思い、盛り上げ、課題を解決すべく取り組んでいるなと思いました。個々の力は限りがあるので、今日のような場を含め、つながり、一緒に活動できればと思いました。そして、継続できるように人や資金も得られれば最高です。
- 上京朝カフェ、研究発表会、同志社EVE、西陣伝統文化祭「千両が辻」など、学生との交流は色々な形でできるかもしれません。
- 上京はまだまだ知らないことだらけ。もっと知りたいです！
- 上京区の平均年齢が年々高くなっているため、若い方の流入を促進する方法をよく考える必要があると思いました。
- 若者や学生が、新しくチャレンジできる場所をつくるのが大事だと思います。
- 留学生や地域の外国人の人との交流の場や、文化交流の場所が必要だと思います。

- 学区など、見えないラインを無くしていく活動にも大変興味があります。
- 定期的に集まって話をすることの大切さに気付きました。
- 子育て支援をしようとしている人が上京区にたくさん集まってくれたら嬉しいです！
- 多くの人の思いや意見を聞くことで、自分の中に新しい気づきが生まれました。
- それぞれの地域で健康づくりに関する活動をされていることが分かりました。個々の活動の波がこだまして大きな活動になると期待しています。
- 健康づくりというテーマで、各方面の活動を知ることができたのは、上京！MOWIに参加したから得られた貴重な収穫です。理解や連携は互いを知ることから始まります。